JIS規格が改正されました。

医療・介護ベッドに係わるJIS規格は、主に医療施設で使用されるベッドについて規定された『JIST9025病院用ベッド』と、在宅での介護を目的として使用されるベッドについて規定された『JIS　T9254在宅用電動介護用ベッド』の2つがあります。この度、この2つの規格の改正案が日本工業標準調査会で審議・承認され、平成21年3月20日付けで改正されました。改正後のこれらのJISは、ベッドの基本的な機能・性能に加え、新たなベッド用手すり(グリップ)の規定を追加し、すき間寸法を見直すなど、安全性を高めるための内容となっています。

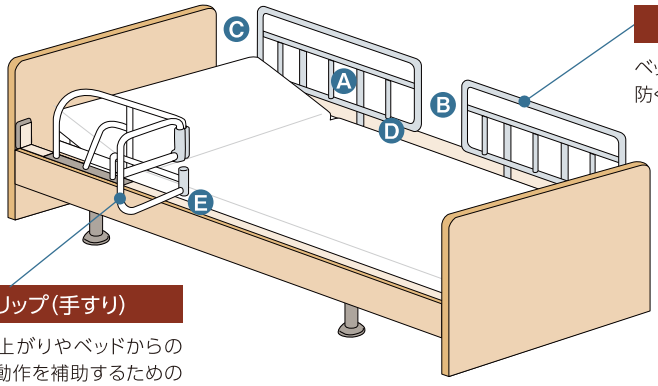
JIS T9254:2009
○○○○○（承認機関名）
No.○○○○○（承認番号）
在宅用電動介護用ベッドのJISマークの例

『JIS T9254在宅用電動介護用ベッド』はJISマーク表示対象品目です。在宅用電動介護用ベッドなどの福祉用品に関しては、高齢者等に配慮した製品であるこのメッセージ性を高めた《目的付記型のJISマーク》が採用されています。

医療・介護ベッドまわりの事故の現状

ここが危ない!

近年、医療・介護ベッド関連の死亡・重傷事故が増えています。
事故の多くは危険な部分があるかどうかの確認と正しい使い方によって未然に防ぐことができます。



サイドレール(柵)

ベッドに寝ている人の転落や寝具の落下を防ぐための製品です。

サイドレール関連

- Ⓐ サイドレール内のすき間
- Ⓑ サイドレールとサイドレールのすき間
- Ⓒ サイドレールとボードのすき間
- Ⓓ サイドレールとマットのすき間
- Ⓔ ベッド用グリップの固定レバー　など

ベッド用グリップ(手すり)

ベッド上での起き上がりやベッドからの立ち上がりなどの動作を補助するための製品です。

サイドレール・ベッド用グリップのすき間の事故

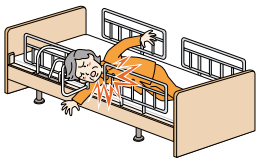
サイドレールなどの中に頭や手、足が入り込み重傷・死亡した。

- ●手や足を入れたままベッドの背を上げた
- ●手や足を入れたまま「起き上がった」「寝返りした」
- ●ベッドから転落したはずみで手や足が入った



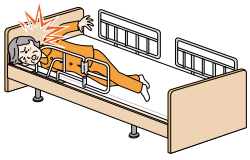
サイドレールとサイドレール(ベッド用グリップ)とのすき間に首がはさまり重傷・死亡した。

- ●背を上げた状態で体位を保持できず、身体が横に倒れた
- ●サイドレールを逆向きに取付けすき間が広くなっていた



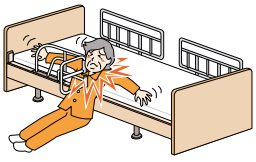
サイドレールなどとボードのすき間にはさまり重傷・死亡した。

- ●ベッドの外のものを取ろうとして身を乗り出した
- ●ベッドとサイドレールのメーカーが違っていた



サイドレールなどとマットレスやベッドフレームの間にはさまり重傷・死亡した。

- ●ベッドより幅の狭いマットレスを使用していた
- ●ベッドとサイドレールのメーカーが違っていた



ベッド用グリップの固定ノブ・レバー関連事故

着衣がベッド用グリップの固定レバーにひっかかり窒息により死亡した。



首振りの固定レバーが外れ、転倒・骨折した。

- ●固定されておらず首振り部が急に動き、転倒・骨折した

